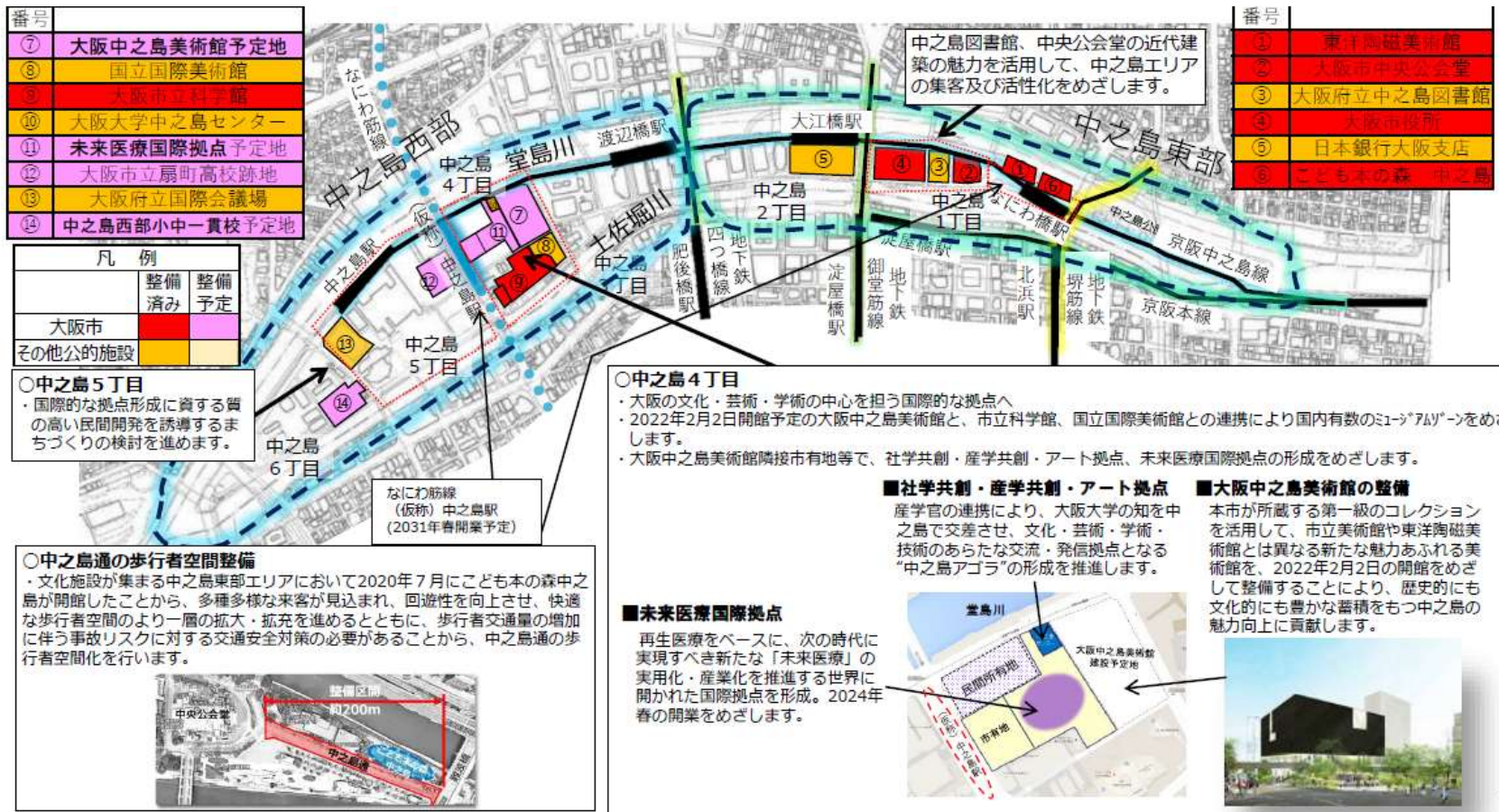


2. 中之島周辺地区における関連計画

■ 第2期大阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略 [2020.3月：大阪市政策企画室]

- 中之島地区は、これまでの業務・文化・MICE機能の集積に加え、大阪中之島美術館や未来医療国際拠点の整備を核に、未利用地の土地利用転換を促進し、これらが連携・調和し相乗効果を発揮するまちづくりの実現を図ることにより、大阪の文化・芸術・学術・国際交流の拠点形成をめざす、とされている。
- 取組：大阪中之島美術館の整備事業 / こども本の森 中之島開館準備・運営事業 / 中之島通の歩行者空間整備 等

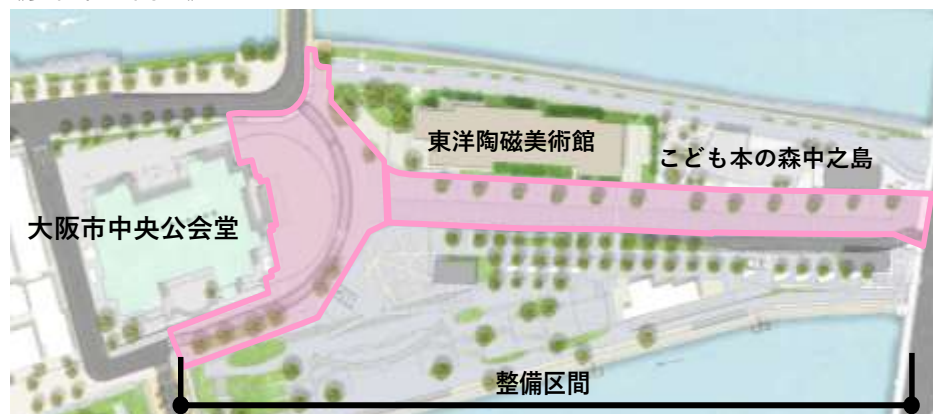


3. 中之島周辺地区の整備・事業の取組状況

■ 中之島通の歩行者空間化（公園化）／こども本の森中之島や大阪中之島美術館の開業

- 中之島公園の中心部を通る中之島通について、周辺のさらなる安全対策に向け、歩行者空間化を行い、中之島エリア全体の回遊性向上と中之島公園との一体的な空間を創出している。
- 2020年7月にこども本の森中之島が、2022年2月に大阪中之島美術館が開業。

《歩行者空間化》



《こども本の森中之島》（2020年7月開業）



《大阪中之島美術館》（2022年2月開業）



3. 中之島周辺地区の整備・事業の取組状況

■ 環境配慮への取組

- 中之島は、平成17年度に国により「地球温暖化対策・ヒートアイランド対策モデル地域」に指定されるなど、環境性の高い地域として認められており、民間企業においても環境共生ビルの整備をはじめとする環境にやさしい開発が進められている。
- 開発の敷地規模が大きく、公開空地における緑化も多く確認できる。

《新ダイビル堂島の杜》

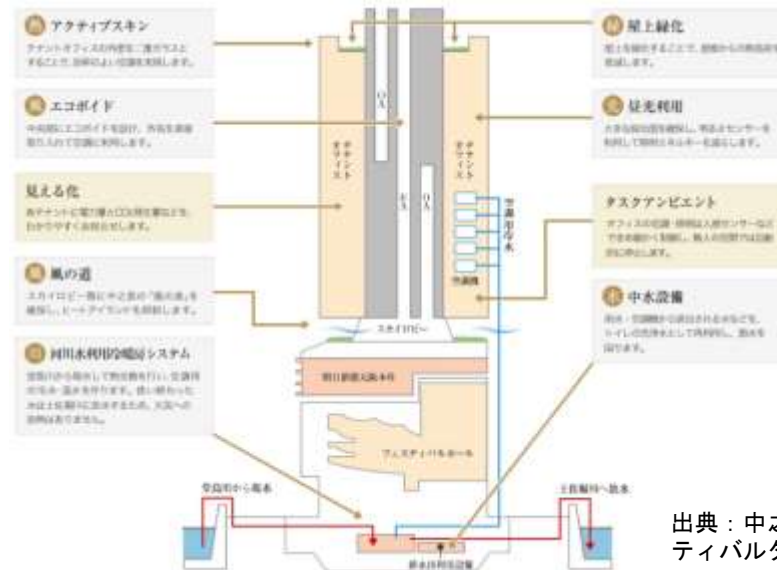


出典：都市緑化機構HP「第36回緑の都市賞」

《中之島四季の丘》



《中之島フェスティバルタワーの環境対策》



出典：中之島フェスティバルタワーHP

■ 「中之島 四季の丘」の特色

- (1) 四季折々の自然を感じられるよう、「中之島 四季の丘」にはウメ・サクラ・ヤマボウシ・モミジなど多様な樹木や地被類を揃えています。地盤を丘陵状とし、樹木の足元を地被類で覆うことで、緑地として一体感のある計画となりました。
- (2) 丘には練瓦敷きの遊歩道を設けており、頂上部まで散策することも可能です。丘の頂上部は、「ダイビル本館」「関電ビルディング」へ繋がるデッキおよび堂島川の遊歩道へ繋がる歩行者用ブリッジに接続しており、将来は大阪市による近代美術館の整備が計画されている中之島4丁目とも歩行者用ブリッジで繋がる予定です。これにより、中之島地域の回遊性が増すとともに、歩車分離が図られ、歩行者の安全性の向上にも寄与します。
- (3) 多くの実をつける花木を中心とした丘は、野鳥や蝶・蜂などの昆虫類を呼び込む生物にとってもやさしい丘を形成しています。また、スロープ沿いにミニスト装置（夏期のみ運用）を設置することで、大阪湾から吹く涼風を街区内に引き込むクールスポットを創出し、都市のヒートアイランド抑制に寄与する緑地を形成しました。

出典：ダイビル株式会社HP

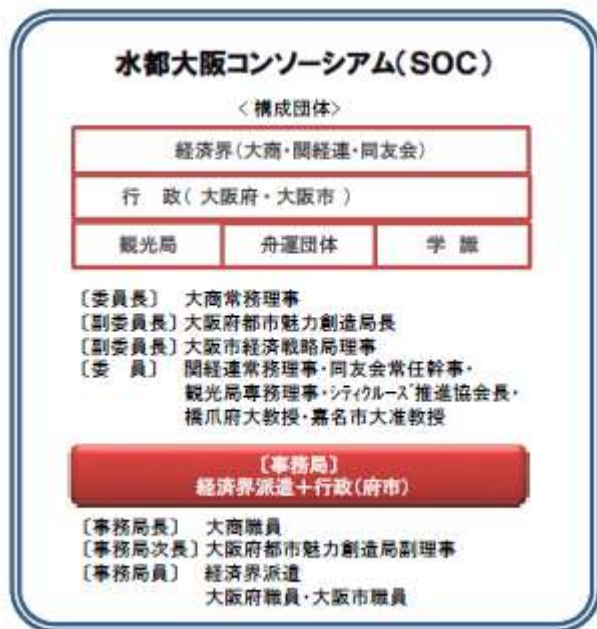
3. 中之島周辺地区の整備・事業の取組状況

■ 水都大阪の取組

かつて「水の都」と呼ばれていた大阪の水辺を、活気あるにぎやかな場へと再生するため、大阪府、大阪市、経済界に加え、大阪観光局、舟運団体、学識者等を構成団体として公民連携のプラットフォームである「水都大阪コンソーシアム」を中心に、中之島周辺をはじめとする水の回廊において様々なプロジェクトが進められている。

《中之島でのイベントの様子》

《水都大阪コンソーシアムの体制》



出典：大阪市HP



出典：水都大阪HP

3. 中之島周辺地区の整備・事業の取組状況

■まちづくり団体等の状況

「大阪エリアマネジメント活性化会議」（2017.1月発足）の会員のうち、2団体が中之島で活動を行っている。

①一般社団法人中之島まちみらい協議会

主な活動

- エリア防災備災の取組み
(防災に係る認識向上のための勉強会や図上訓練)
- 公式サイトによるプロモーション活動
(水辺空間や歴史資産の魅力、新店舗やイベントなどの情報を発信)
- フォトコンテストの開催 (市民参加型の魅力発見・発信企画)

②中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会

主な活動

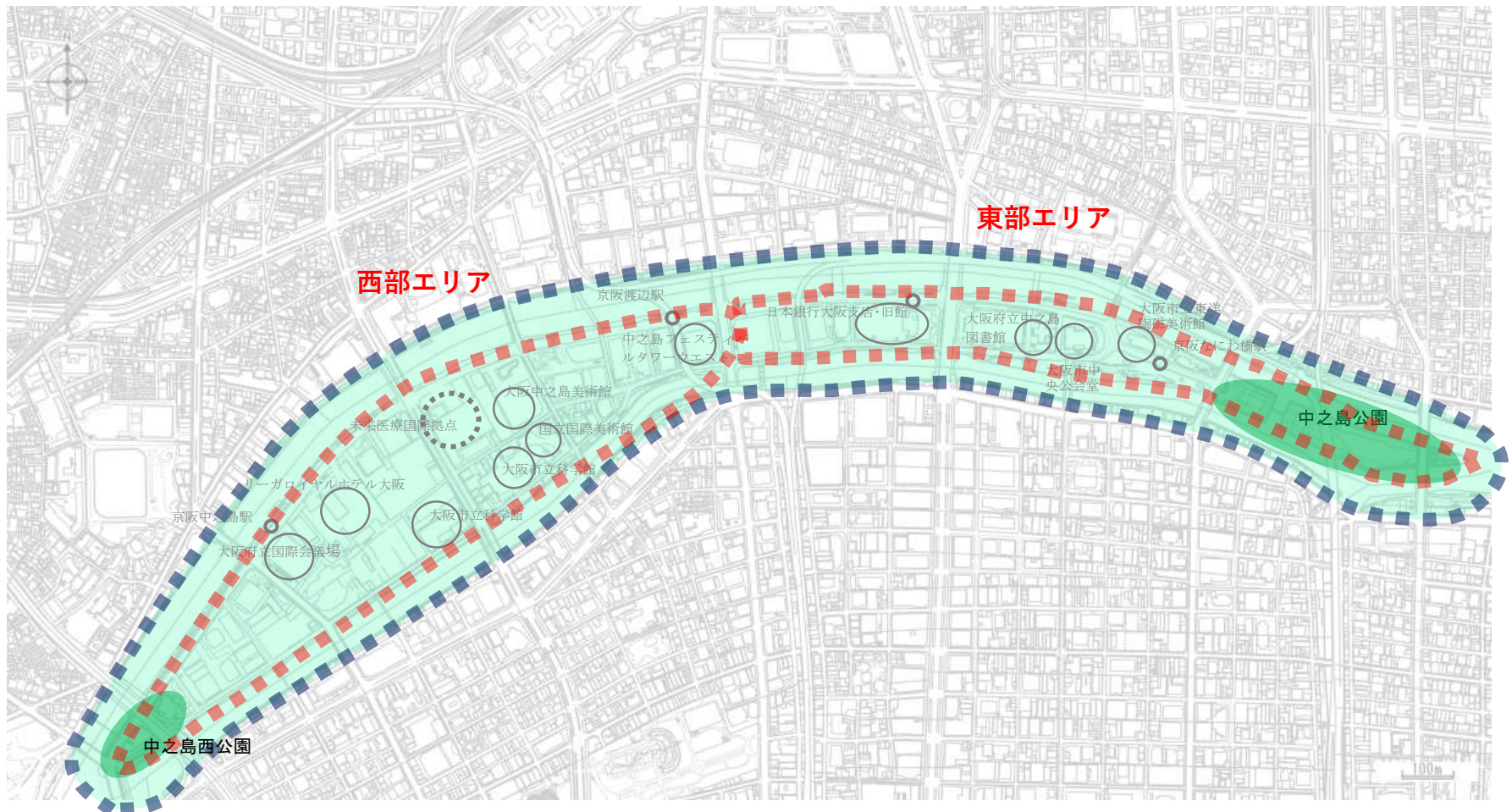
- 年2回のクリーンアップ活動
- 打ち水プロジェクト (ヒートアイランド現象の緩和、おもてなし)
- イベント開催 (中之島ウエスト・冬のものごたがり)
- 情報交換会及び勉強会 (相互理解、防災減災・防犯)



4. 中之島周辺地区の対象範囲

■ 対象範囲の考え方

- 南北方向の主要幹線道路等で分断されるものの、土地利用や施設立地状況、歩道のネットワークなどを考慮し、一体的な空間としてとらえる。
- 水辺の景観形成の観点から、堂島川、土佐堀川の対岸護岸も含め、中之島周辺地区はおおよそ下図に示す範囲とする。



5. 中之島周辺地区の“みどり”に関する課題の整理

緑の基本計画で示されている5つの基本方針の観点から、以下のとおり課題整理した。

①だれもが住みたい・働きたい・訪れたいと思う“みどりの基盤”を構築する

- 地区全体で、公園樹、街路樹等の質の高い維持管理が必要である。
- 西部エリアの未利用地などでは、今後の開発にあわせて緑化の取組を推進する必要がある。

②みどりを市内及び周辺につなげていく“みどりのネットワーク”を構築する

- 西部エリアでは、誰もが安心・安全に巡り楽しめる遊歩道などのみどりの歩行者ネットワークを形成する必要がある。

③大阪の個性を特徴づける自然・歴史・文化の“みどりの骨格”を形成する

- 地区全体において、水都大阪のシンボルにふさわしい施設とみどりが一体となった質の高い景観形成が求められる。

④既存ストックと民間活力を最大限に活かし、“みどりの都市魅力”を創出する

- 東部エリアの中之島公園を活用したまちの魅力向上が必要である。

⑤市民・事業者・行政が将来像を共有し、みどりのまちづくりを推進する“仕組み”を構築する

- 中之島西部エリアで活動するまちづくり団体等と連携しながら、みどりのまちづくりを推進する必要がある。

6. 中之島周辺地区 緑化等の方針の検討（たたき案）

－ 基本方針 －

水都大阪のシンボルアイランドにふさわしい
環境と共生し自然・歴史文化を育み楽しむみどりの創造

個別方針①

水都大阪を象徴する
水辺を活かした
みどり環境の創造

- 水都大阪の都市環境改善モデルとなるみどりづくり
- 水辺や光を活かしたみどり景観の保全育成
- みどり空間の利活用によるにぎわいの創出

個別方針②

中之島の歴史文化、
芸術に触れるみどりの
ネットワークの形成

- 東西軸をつなぐ水辺沿いの遊歩道の維持保全
- 主要施設を回遊できる質の高い緑道の確保

個別方針③

緑豊かな東部エリアと
連続性をもたせた
西部エリアへの
みどり空間の波及

- まちの品格を高めるだけでなく、生物多様性の保全やヒートアイランドなど都市環境の改善にも資する高質な緑化の推進
- 新たな開発におけるゆとりあるみどり空間の確保